

「学びの革新」指導事例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 美術科
- ◇学年 中学部 第3学年 重複障害学級(2名)
- ◇単元名 「彫塑, 立体」
- ◇目指す姿 『気付き, 考える姿』
- ◇単元の目標 ○ 自然や造形品の美しさなどに関心を持つ。【鑑賞】
- ◇本時の目標 ・ 作品を見て, 動作や言葉で表現することで鑑賞の能力を高めることができる。
- ◇生徒の実態 本学級は知的障害と身体障害, 聴覚障害を併せ有する重複障害の生徒1名, 知的障害と身体障害を併せ有する生徒1名の計2名で編制している。美術の授業には意欲的に取り組んでおり, これまでに絵画, 彫刻, デザイン, 工芸等の一通りの表現方法を学んできた。しかし, 他者の作品をよく鑑賞しその良さを認め合い作品について語り合うなどの言語活動の充実を図った鑑賞活動は, これまで十分に行ってこなかった。そのため, 鑑賞の能力が十分に育っていない。また, 2名ともコミュニケーションの点で課題があり, 現在は全授業を通して適切なコミュニケーションについて重点的に指導を行っている最中である。

＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価		
	A	B	全体
展開①作品をよく見よう ●本時に学習する題材を鑑賞する。	○提示された作品を注視し鑑賞するよう言葉掛けを行う。 (T1) ○鑑賞した作品についての感想が主体的に出てきた場合, 感想を友だちに共有するように促したり称賛させたりする。 (T2)	○提示された作品を注視し鑑賞するように言葉掛けを行う。 (T1) ○作品についてどう思うかなどの簡単な質問をしたりしながら友だちと作品についての良さを認め合い共有できるようにする。 (T1)	○作品がより鮮明に見えるよう大型電子黒板を活用する。 ○生徒が作品に親しみを持つことができるよう, 描かれている素材は日常生活に関係するものを選んだり, イメージしやすい実写画等を選んだりする。 (T1)
展開②ジェスチャーゲーム ●アートカードを使ってお互いに作品をジェスチャーと手話で伝え合う。	作品を鑑賞しその作品の特徴を捉え適切な手話で伝えることができる。 ○伝えたい内容を適切な手話で伝えることができるよう, 生徒になじみの深い言葉や覚えてほしい言葉などを予め手話辞典を用意しておき, 自分で適切な手話表現を調べて使うことができるように用意をする。 (T2) ☆作品を鑑賞しその作品の特徴を捉え適切な手話で伝えることができる。	作品を鑑賞し相手に伝えるような動作で伝えることができる。 ○伝えたい内容を適切な動作や手話で相手に伝えることができるよう, 正しい手話や分かり易い動きができていのかどうか姿見を使って自分で確認させたり, うまく伝わらない場合は言葉かけ等で訂正させたりする。 (T1) ☆作品を鑑賞し相手に伝えるような動作で伝えることができる。	○作品は展開①で鑑賞した作品とすることで親しみを持たせ, 言語表現がより円滑に行えるようにする。 ○発表する相手の方を向かせることで発表を聞く姿勢を意識させる。 ○ジェスチャーしている様子を写真に撮り, iPad等で提示する。(T1)

「鑑賞」を指導する上で, コミュニケーションに課題のある生徒に, 始めから言葉で作品の特徴を発表させるのではなく, 身体表現を使いゲーム的要素を取り入れたことで作品に対して感じたことを積極的に表現できていました。

「鑑賞」する作品は, 生徒が表現しにくい抽象的な絵画等ではなく, 具体物等が表現され, それでいて比較的有名なものを精選し, それをフラッシュカードのように提示することで生徒の興味を引き付けました。

作品の良さや美しさ等を味わう「鑑賞」は, どのように感じたかを表現することに意義がある。本時はその点を意識した学習展開である。コミュニケーションに課題のある生徒に, 「鑑賞」に対する不得意感を持たせないように, ジェスチャー等の身体表現で作品を説明させる工夫をしている。展開①で生徒がアートカードに興味を持ち, 感じたことを身体表現している場面が見られた。ここで生徒の発言(表現)を即時に取り上げ, 正しく文字・手話で言語化することが展開②の学習活動が充実するものと考え。生徒の「気付き」を細かく取り上げ, 言語化する場面を多くすることで, 主体的な学びを引き出すきっかけとなるものと考え。